

## アメリカ国立公文書館資料再考 2

——史料を活用したバイオエシックス教育の取り組み——

丸山マサ美

### 【研究の背景】

本研究は、平成22年度に着手した科学研究費事業（テーマ）九州大学医学部における史料研究—新しい「医の倫理」教育方法論の構築（課題番号）23650563—継続研究（一部）となる。これまでの主な成果には、病院キャンパス久保記念会館（Kubo-Museum）内で発見された初代耳鼻科久保猪之吉教授（自記）『診療録（手術候補簿）』の解析、平成9年（当時）九州大学言語文化研究院 Wolfgang Michel 教授・大学院生の調査資料：整形外科教室器物史料・ノート（83点）、解剖模型（294点）、病理学肉眼標本室標本（1542点）、医学部資料集室史料（221点）をまとめた『九州大学医学部標本・史料集—1997年調査（ISBN978-4-9444005-10-9）』が刊行され、平成17年、福岡西方沖地震（Mag. 7）により既に修復不可能である破損標本も含まれた。

今回は、筆者の海外調査結果から「アメリカ国立公文書館資料」について、バイオエシックス教育・研究の視点として、いわゆる「九州大学生体解剖事件」を国際的かつ学際的に取り組むべき慎重を期する内容（一部）を報告した。

### 【研究の目的と主な成果】

九州大学医学部蔵書には、17世紀より19世紀までの未整理の古医書・貴重書があり、平成25年度は、宮入文庫『和書39冊・洋書29冊』、平成26年度は、『和書2冊・洋書145冊』を整理し、保存・目録登録・配架した。また海外調査として、米国 Washington DC ジョージタウン大学図書館視察、アメリカ国立公文書館での本学医学部に関係の深い資料を調査した。九州大学医学部史料研究は、個人所有（日記・手紙・写真・絵画）、聞き取り記録（インタビュー）等、補完的史料収集を重ねながら、新たな一次資料の発見・発掘

を行った。バイオエシックスは、生命に関わる広範かつ多岐にわたる具体的な4領域（1）生命科学研究をめぐる問題、（2）医療をめぐる問題（「生命の始期」をめぐる問題・「健康な生活」をめぐる問題・「生命の終期」をめぐる問題）—Biomedical Ethics、（3）人類を含む「生態系」及び「環境」をめぐる問題—Environmental Ethics、（4）人類の「生存」をめぐる問題—Global Bioethics に分類<sup>1)</sup>される。筆者は、これに加え、（5）史料に見る生命の問題を捉える視点をバイオエシックス教育<sup>2)</sup>を実施している。

### “Encyclopedia of BIOETHICS”における九州大学生体解剖事件

米国では、1969年に世界初のバイオエシックスの研究機関である「ヘースティングス研究所」が設立され、1971年にはジョージタウン大学ケネディ研究所内に「バイオエシックス研究センター」が設置された。1978年にこのケネディ研究所のライク（Reich, W.T）博士を編集主幹として、同センターの研究所と世界各国の人文、社会、自然科学、医学の専門家によって執筆されたバイオエシックス百科事典（Encyclopedia of Bioethics）4巻がMacmillan社より刊行された。この百科事典の序文でライク博士は「バイオエシックスとは、生命科学と医療の分野における人間の行動をもっぱら道徳的な規則と原則に照らして吟味する体系的研究」と記されている。バイオエシックス百科事典における「いわゆる『九州大学生体解剖事件』」は、遠藤周作の小説『海と毒薬（1960）』を紹介し、日本社会の医療と倫理の意義とあり方に一考を求め、遠藤の主張「日本社会には、絶対的な価値基準が欠如している」事<sup>3)</sup>とまとめられている。

筆者は、平成26年12月2日、アメリカ国立公

文書館資料調査中、九州大学生体解剖事件関係資料『Fu-256』に、偶然にも発見したキーパーソン“石山福二郎文書(複写)”を書籍<sup>4)</sup>に掲載した。この文書は、バイオエシックス教育・研究への期待として、医療専門家の責務を考える上で、次世代を担う学生自身の行動規範を問うテーマと捉える。筆者は、平和な今だからこそ必要な開かれたバイオエシックスの課題であると考えている。

### 引用文献

- 1) 大林雅之著, 生命にふれる, 葦書房, 平成4年5月30日, 14頁
- 2) 丸山マサ美編著, バイオエシックス, 川島書店, 平成30年5月12日, 31頁-32頁
- 3) 木村利人, 生命倫理百科事典第1巻編集生命倫理百科事典翻訳刊行委員会, IV日本B. 現代日本, 国家と権力に対する医学の忠誠(1938-1968), 丸善, 平成19年1月13日, 464頁
- 4) 前掲書2, 217頁

### 参考文献

1. 東野利夫, 汚名「九大生体解剖事件の真相」, 文春文庫, 1985年
2. 遠藤周作, 海と毒薬, 角川文庫, 1960年

3. 上坂冬子, 生体解剖事件, PHP, 2005年
4. 九州大学第一外科百年史, 九州大学医学部第一外科同門会, 2005年10月
5. 熊野以素, 九州大学生体解剖事件70年目の真実, 岩波書店, 2015年
6. RG331, UD 1189, Box 927, Fu-256: Kyudai Vivisection, ATIS 21297 F4256
7. [http://www.dailymail.co.uk/news/article-3028694/U-S-POWs-shot-Japan-70-years-age, US POWs shot down over Japan 70 years ago were dissected while ALIVE, US bomber crew shot down over Japan were dissected while ALIVE in horrific WW2 experiments: Japanese university acknowledges full details of atrocity 70 years on](http://www.dailymail.co.uk/news/article-3028694/U-S-POWs-shot-Japan-70-years-age_US_POWs_shot_down_over_Japan_70_years_ago_were_dissected_while_ALIVE_US_bomber_crew_shot_down_over_Japan_were_dissected_while_ALIVE_in_horrific_WW2_experiments_Japanese_university_acknowledges_full_details_of_atrocity_70_years_on)
8. Weekly Information Bulletin: Proceedings of the First Military Government Conference, Headquarters USFET, 27-29 August. 1945 文書名: GHQ/SCAPRecords, Economic and Scientific Section = 連合国最高司令官総司令部経済科学局文書 Minutes (Incl. Agenda and Extracts), 会議録(含: 議案, 議事要録)
9. Personal History Statements of Japanese Army and Naval and Government Officials (Volume) 文書名: GHQ/FEC, Military History Section: The Reports of General Macarthur = 極東軍総司令部戦史部/マッカーサー元帥レポート関係文書 Minutes (Incl. Agenda and Extracts), 会議録(含: 議案, 議事要録) 他  
(平成30年12月六史学会合同例会)

## 『解体新書』扉絵の書誌的研究

安江 明夫

杉田玄白等による『解体新書』(1774年刊)の扉絵引用元は、長年、不明とされてきた。しかし、C.R. Boxer(英国のアジア史研究者)の指摘<sup>1)</sup>以来、「ワルエルダ『解剖書』表題紙絵に良く似ている」「ワルエルダ『解剖書』から模写したのではないか」と理解されるようになった。

この点をワルエルダ『解剖書』の版元、プランタン印刷所から考察してみよう。16世紀、アントワープを拠点に一大印刷業を営んだクリストフ・プランタンの印刷者マークは標語「LABORE ET CONSTANTIA(精励と不動心)」とそれを表象する「黄金のコンパス(の2本の脚)」である。当時、玄白らは欧文文字印刷禁制と理解していたの

で標語 LABORE ET CONSTANTIA は写されていないが、標語を表象する「コンパス」は扉絵に明確に描かれている。そこから、同扉絵はプランタン版ワルエルダ『解剖書』から模写したと確認できる。即ち、「良く似ている」「模写したのではないか」ではなく「模写した」のである。

ところでワルエルダ『解剖書』からの模写は扉絵だけではなかった。田中邦彦教授(岐阜医療科学大学)が、比較的最近に、同書から扉絵の他に6点の解剖図を『解体新書』に模写していることを発見している<sup>2)</sup>。であれば『解体新書』にとってワルエルダ『解剖書』は、扉絵+解剖図6点の模写原本であり、これまで考えられた以上に重要